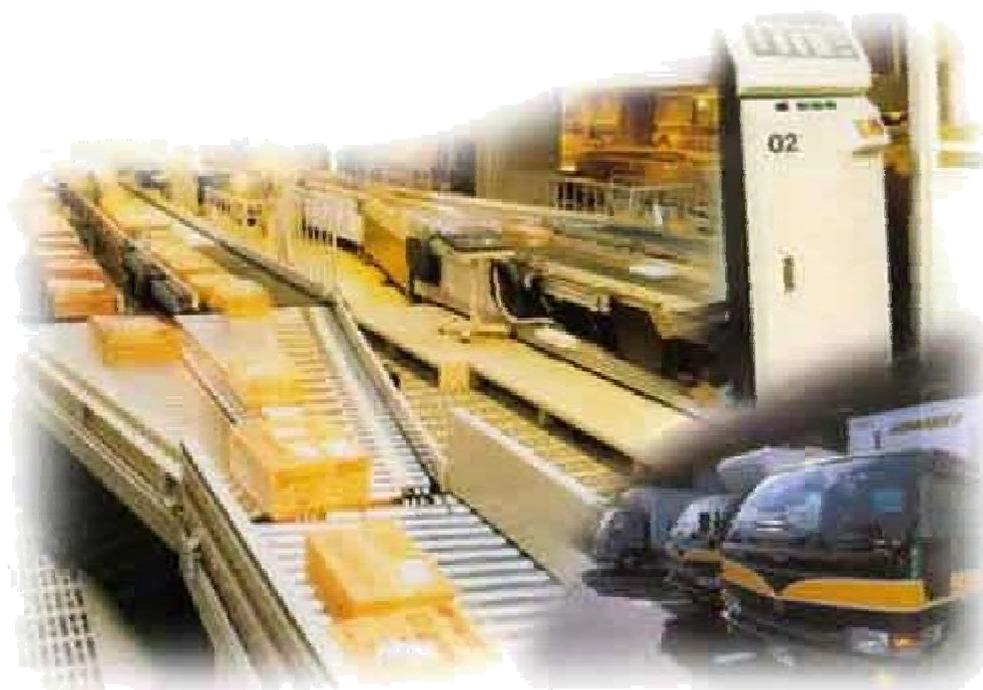


2014年3月期第2四半期 決算説明会

2013年 11月 12日
株式会社ハマキョウレックス
東京証券取引所市場第一部:9037



- I. 2014年3月期第2四半期概況
- II. 2014年3月期 下期に向けて
- III. 2014年3月期第2四半期実績
- IV. 近物レックスの現況と今後の戦略
- V. 参考情報

※本会社説明資料は、2013年8月13日発表の訂正短信に基づき、2011/3～2013/3の数値を訂正しております。

I . 2014年3月期 第2四半期概況

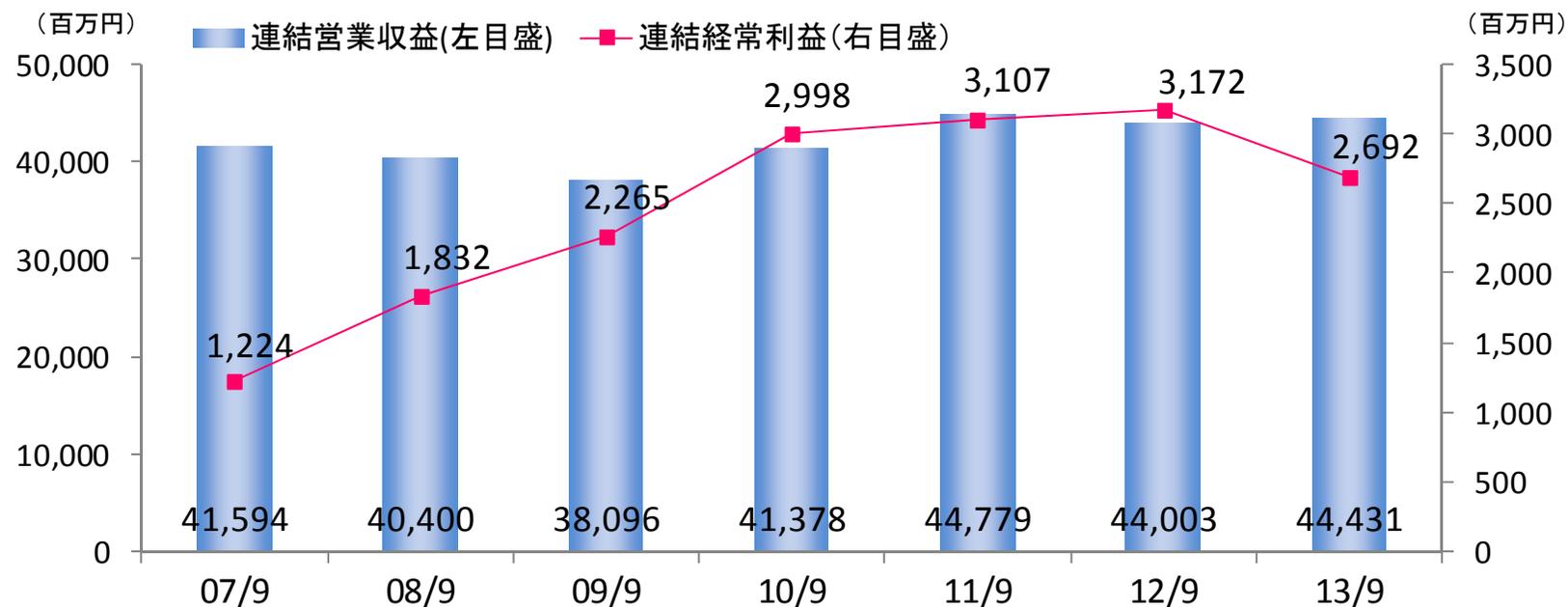
I-1. 2014年3月期第2四半期の業績

営業収益は、**444億 31百万円**（前年同期比 +1.0%）
 経常利益は、**26億 92百万円**（前年同期比 -15.1%）の増収減益

項目	対前期比	対計画比 ※1	対前期比増減要因
営業収益 44,431百万円	+428百万円 (+1.0%)	+431百万円 (+1.0%)	・運送事業での新規荷主の獲得および物量増加等による増収
営業利益 2,599百万円	△479百万円 (△15.6%)	△501百万円 (△16.2%)	・物流センター事業における物量の減少等
経常利益 2,692百万円	△479百万円 (△15.1%)	△408百万円 (△13.1%)	・営業利益の減少
当期純利益 1,216百万円	△420百万円 (△25.7%)	△384百万円 (△24.0%)	・経常利益の減少 ・特別損失(和解金等)の計上

※1 計画は、2012/5/10発表数値との比較

I-2. 収益構造



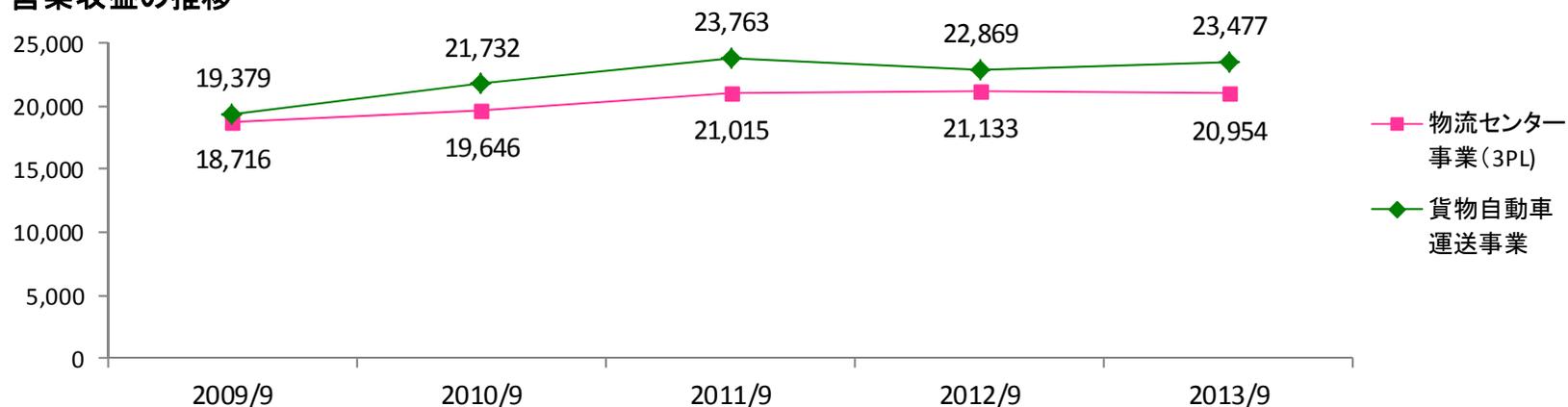
	連結業績
営業収益	増 収
営業利益	減 益
経常利益	減 益
四半期純利益	減 益

I-3. セグメント情報の推移

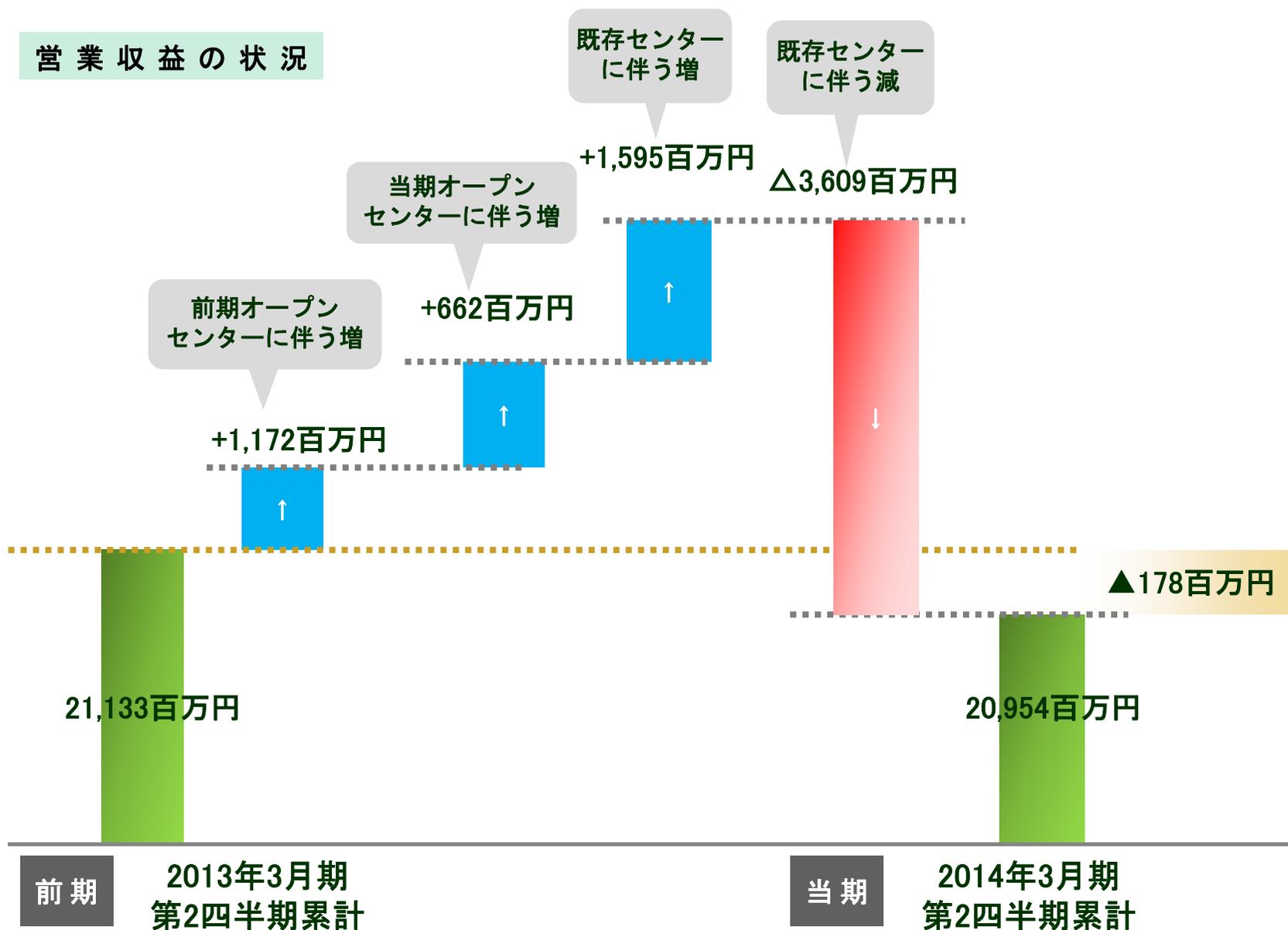
(連結:百万円)

		2009/9 (構成比:%)	2010/9 (構成比:%)	2011/9 (構成比:%)	2012/9 (構成比:%)	2013/9 (構成比:%)	増減 (増減率:%)
物流センター 事業(3PL)	営業収益	18,716 (+49.1%)	19,646 (+47.5%)	21,015 (+46.9%)	21,133 (+48.0%)	20,954 (+47.2%)	△179 (△0.8%)
	営業利益	2,185	2,214	2,484	2,396	1,813	△583
貨物自動車 運送事業	営業収益	19,379 (+50.9%)	21,732 (+52.5%)	23,763 (+53.1%)	22,869 (+52.0%)	23,477 (+52.8%)	+607 (2.7%)
	営業利益	160	561	607	678	784	+106

営業収益の推移



I-4. 物流センター事業(3PL)の概況



I-5. 物流センター事業の稼働状況

新規受託及び稼働

取扱品目	① 前期受託 未稼働	② 当期 受託	③ 稼働		④ 当期 未稼働	①+②-③-④ memo
			既存※1	新規※2		
食品	1社	0社		1社	-	
繊維・アパレル		6社	2社	2社	2社	当期受託2社
医薬・医療		1社			1社	当期受託1社
雑貨	4社	2社	5社		1社	当期受託1社
計	5社	9社	7社	3社	4社	

※1 既存の物流センター内に稼働した案件 / ※2 新規拠点にて稼働した案件

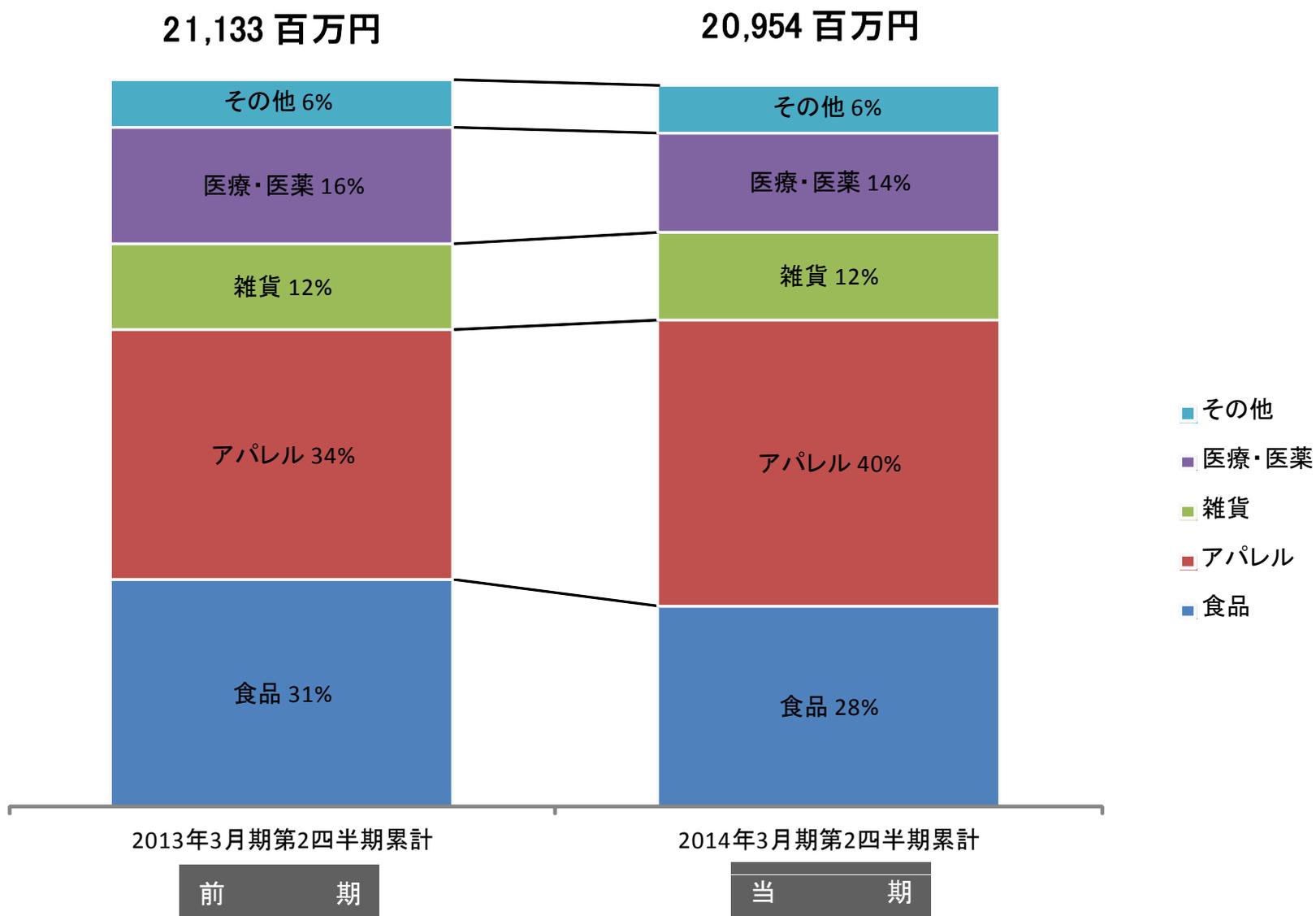


物流センター数

2013年9月30日現在

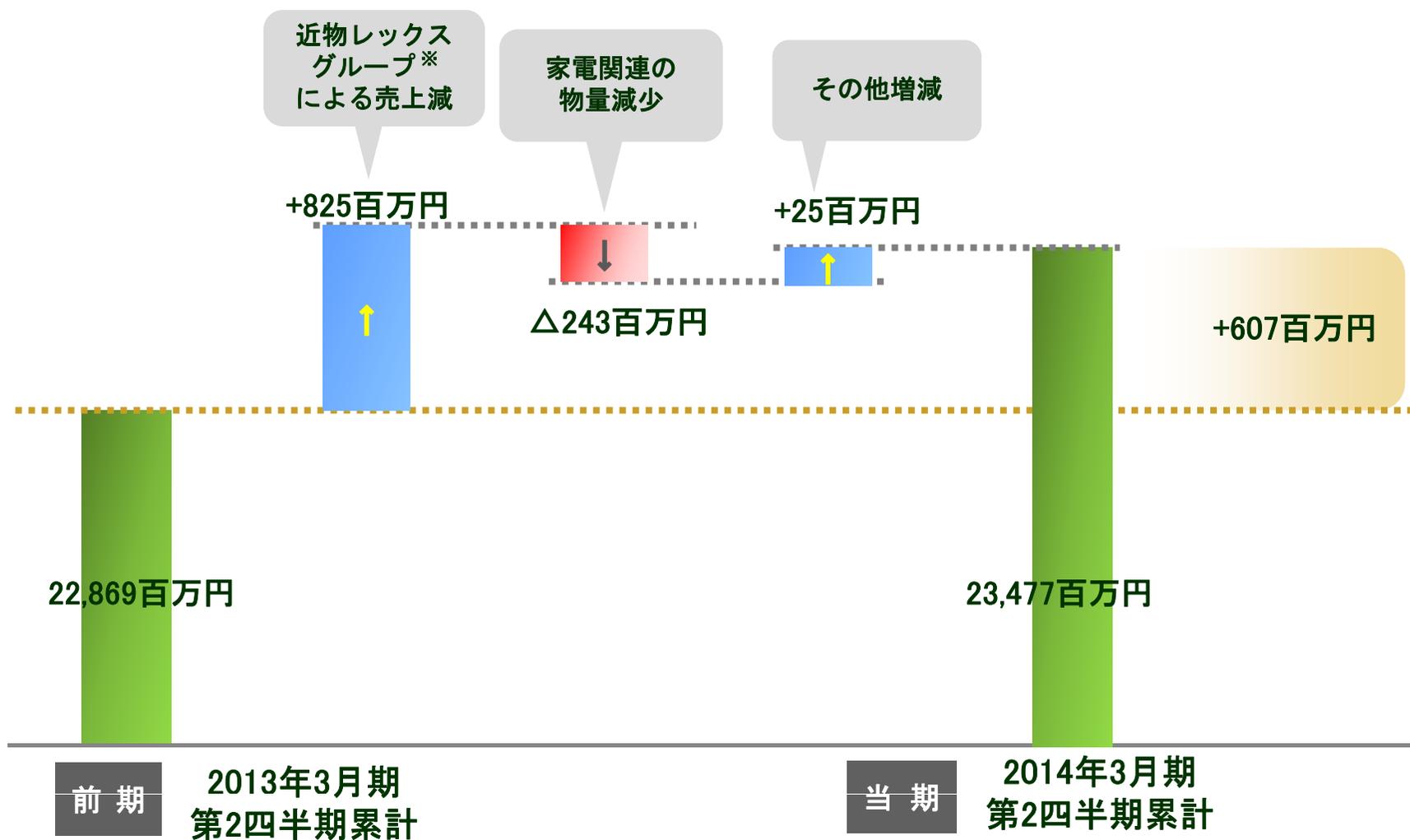
自社センター	21 (216,639㎡)
借用センター	53 (546,424㎡)
計	74 (前年度末比-2)

I-6. 物流センター事業の取扱品目別売上高



I-7. 貨物自動車運送事業の概況

営業収益の状況



※近物レックスグループとは、近物レックス(株)とその子会社3社です。(都運輸(株)、三重近物通運(株)、茨城県貨物自動車運送(株))

I -8. 貨物自動車運送事業の概況 2

1. 収益の状況（前期比 +607百万円）

- 近物レックスでの新規顧客の獲得、既存顧客の物量増加（+825百万円）
- 家電関連の物量減少（▲242百万円）

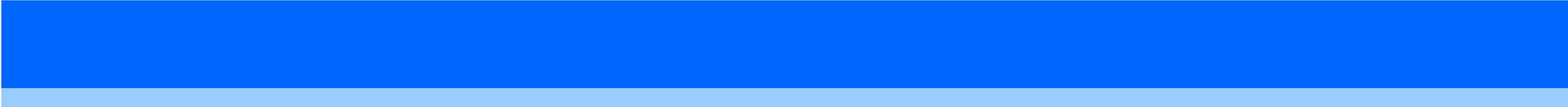
2. 近物レックス株の状況

- 日々管理の強化により、営業利益率アップ（1.5%⇒2.0%）
- 車両1830台にドライブレコーダーを設置（輸送品質向上）

3. 輸送能力

- 車両台数 3,143 （自社車両：2,037、リース車両：1,106）
- 延積載屯数 18,286(トン)





Ⅱ. 2014年3月期 下期に向けて

Ⅱ-1. 2014年3月期 業績予想

(百万円)

	連結業績	
	計画	前期比 (増加率)
営業収益	91,000	+2,056 (+2.3%)
営業利益	6,900	+1,061 (+18.2%)
経常利益	6,900	+943 (+15.8%)
当期純利益	3,500	+398 (+12.9%)
設備計画	8,000	***

(平成25年5月9日公表数値)

(百万円)

セグメント別業績予想

	計画	前期比	(増加率)
物流センター事業	営業収益	43,500	+892 (+2.1%)
	営業利益	5,400	+965 (+21.8%)
貨物自動車 運送事業	営業収益	47,500	+1,163 (+2.5%)
	営業利益	1,500	+103 (+7.4%)

Ⅱ-2 . 経営指標

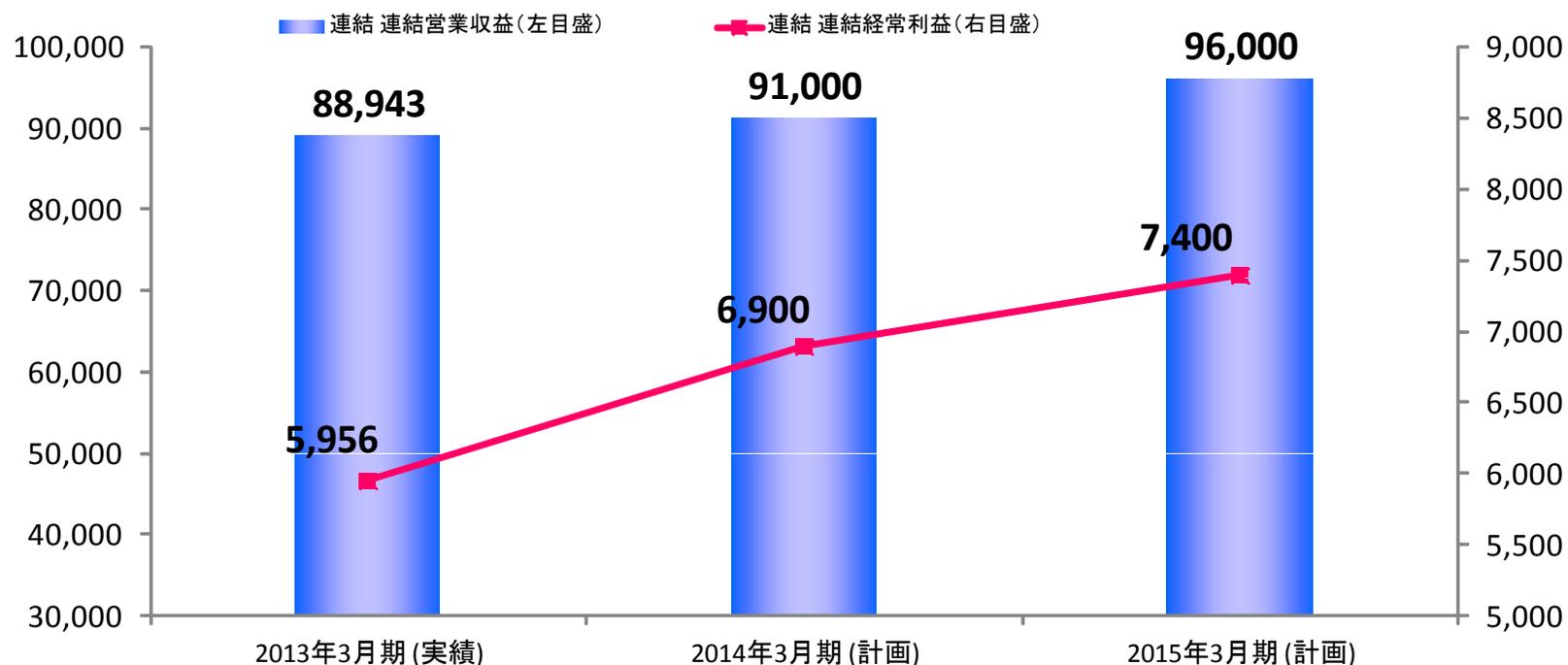
	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3予想
1株当たり当期純利益(円) [EPS]	286.92	306.90	392.18	371.24	419.00
自己資本当期純利益率(%) [ROE]	13.6	12.9	14.5	12.2	12.0
1株当たり純資産(円) [BPS]	2,245.82	2,521.36	2,879.58	3,221.62	3,719.22
総資産経常利益率(%) [ROA]	6.4	6.9	7.5	6.9	7.7
営業収益営業利益率(%)	6.3	6.4	7.0	6.6	7.5
営業収益経常利益率(%)	6.4	6.7	7.1	6.7	7.5
1株当たり配当金(円)	32	36	38	40	42

Ⅱ-3. 中期経営計画

(百万円)

	2013年3月期 (実績)	2014年3月期 (計画)	2015年3月期 (計画)
	連結	連結	連結
営業収益	88,943	91,000	96,000
経常利益	5,956	6,900	7,400
当期純利益	3,101	3,500	3,800
1株当たり当期純利益	371.24	419.00	454.92
営業収益経常利益率	6.6%	7.6%	7.7%
設備投資計画	30億円	80億円	80億円

(2013年5月9日公表)



Ⅱ-4. 今後の取り組み

1. 既存路線を軸とする事業展開(拡大路線)

3PLを成長ドライバーとした戦略の継続

お客様とのコミュニケーションを重視し、**提案型物流企業**をめざす
新たに支社制を導入し、管理強化及び判断のスピードアップを図る
センター立上時の初期コストの低減及び早期安定稼働をはかる

2. 3つのキーワードを中心とした取り組みの継続

「**日々収支**」「**全員参加**」「**コミュニケーション**」の既存路線を踏襲した上で、更なる高みを目指し、挑戦してまいります

3. 3PL事業とグループ会社の融合

グループ各社の既存の業務にとらわれず、グループ内のインフラ・ノウハウを有効活用した事業展開を図ってまいります

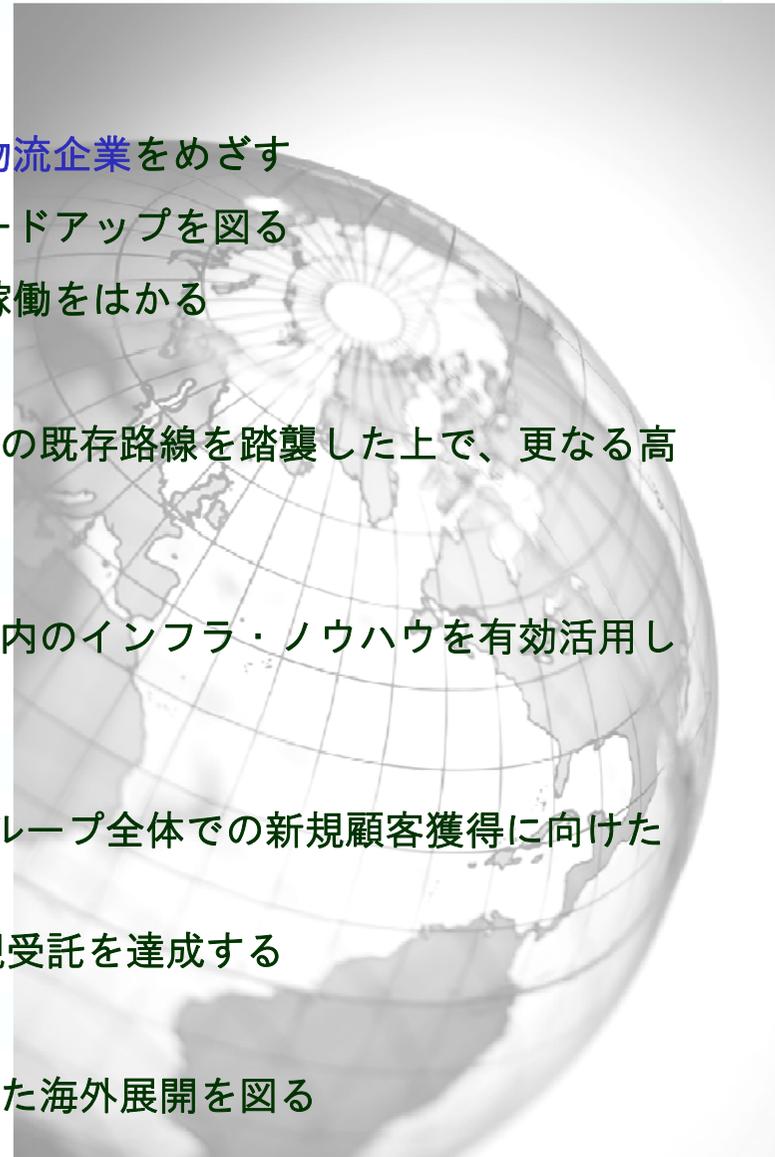
4. 新規顧客獲得に向けた取り組み

既存の組織・職務・各関連会社にとらわれず、グループ全体での新規顧客獲得に向けた営業を行う

物流センター事業での年間受託目標**15社以上**の新規受託を達成する

5. 海外戦略への取り組み

国内の顧客満足度を向上させるため、ニーズに応じた海外展開を図る



Ⅲ. 2014年3月期 第2四半期決算実績

Ⅲ-1. 四半期会計期間別（3ヶ月）の業績推移

（連結：百万円）

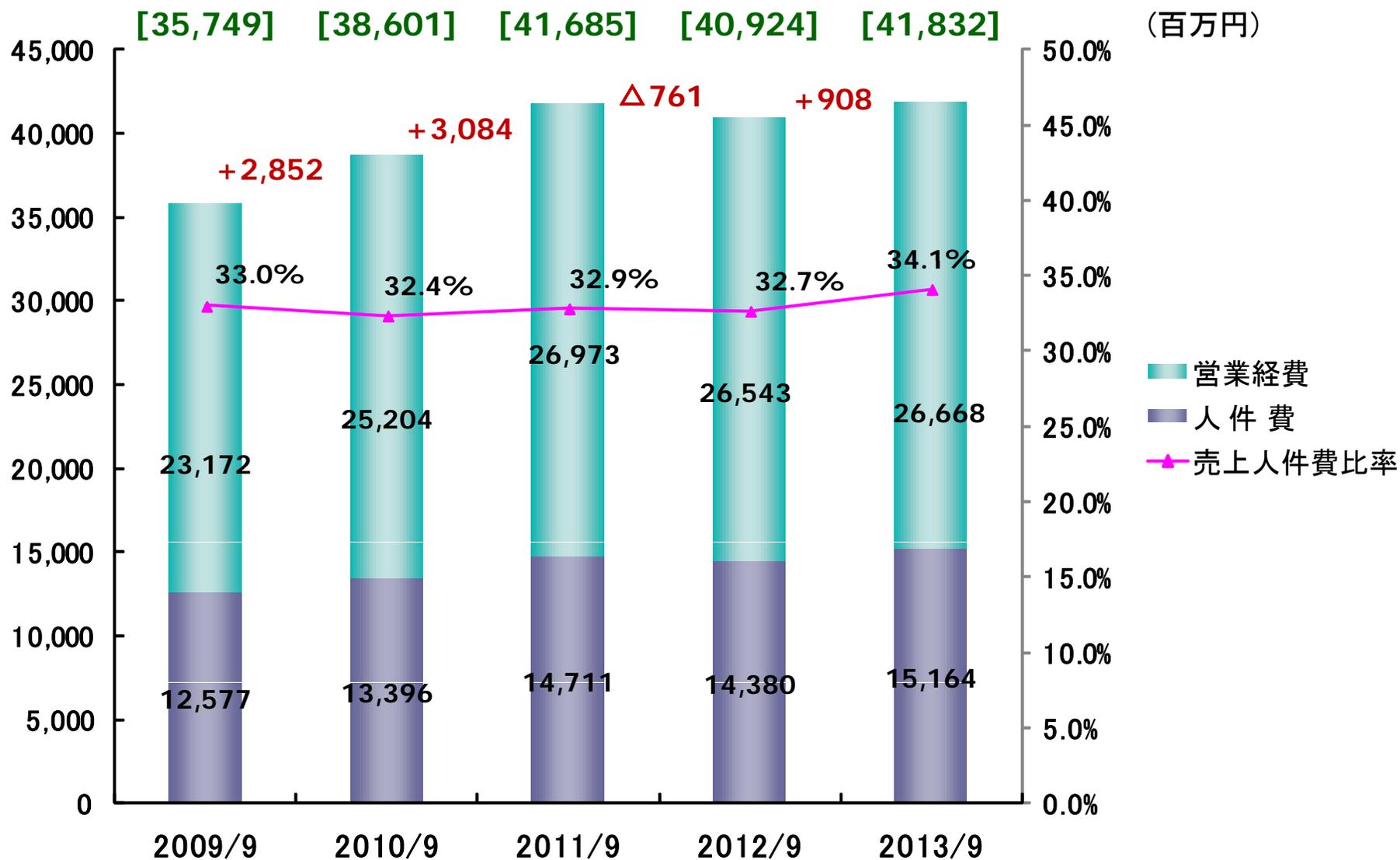
	第1四半期			第2四半期		
	2013/6	前期比 (増減率)	利益率	2013/9	前期比 (増減率)	利益率
営業収益	22,245	+193 (+0.9%)	—	22,186	+235 (+1.1%)	—
営業利益	1,329	△282 (△17.5%)	6.0%	1,269	△196 (△13.4%)	5.7%
経常利益	1,369	△296 (△17.8%)	6.2%	1,323	△183 (△12.2%)	6.0%
当期利益	721	△98 (△12.0%)	3.2%	494	△322 (△39.5%)	2.2%

Ⅲ-2. セグメント別四半期会計期間(3ヶ月)の業績推移

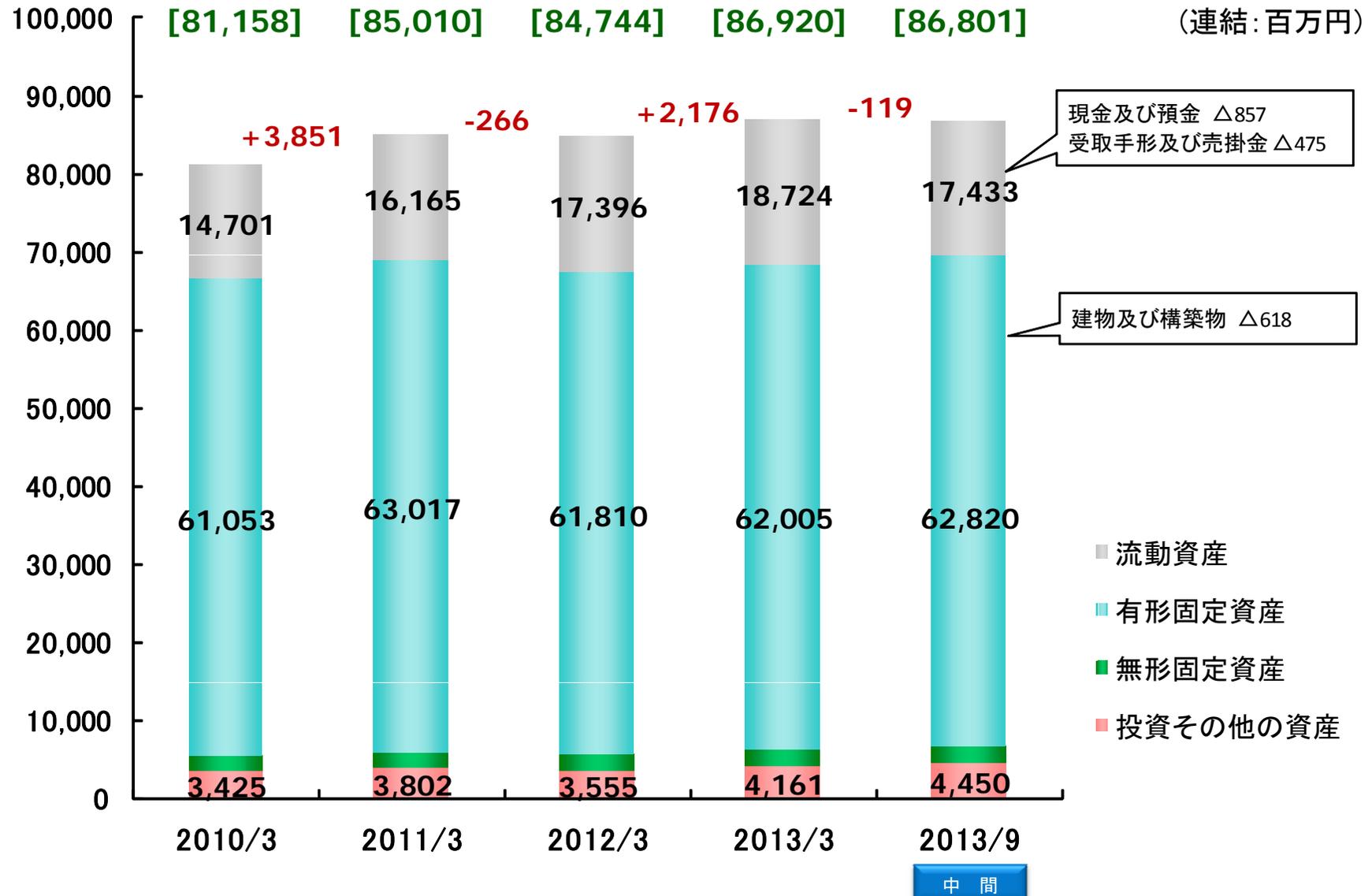
(百万円)

		第1四半期 (4~6月)		第2四半期 (7~9月)		第2四半期累計 (4~9月)	
		当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
物流センター	営業収益	10,546	+40 (+0.4%)	10,408	△219 (△2.1%)	20,954	△178 (△0.8%)
	営業利益	971	△333 (△25.5%)	841	△249 (△22.9%)	1,813	△583 (△24.3%)
貨物自動車運送	営業収益	11,698	+153 (+1.3%)	11,778	+454 (+4.0%)	23,477	+607 (+2.7%)
	営業利益	357	+51 (+16.9%)	426	+54 (+14.6%)	784	+106 (+15.6%)

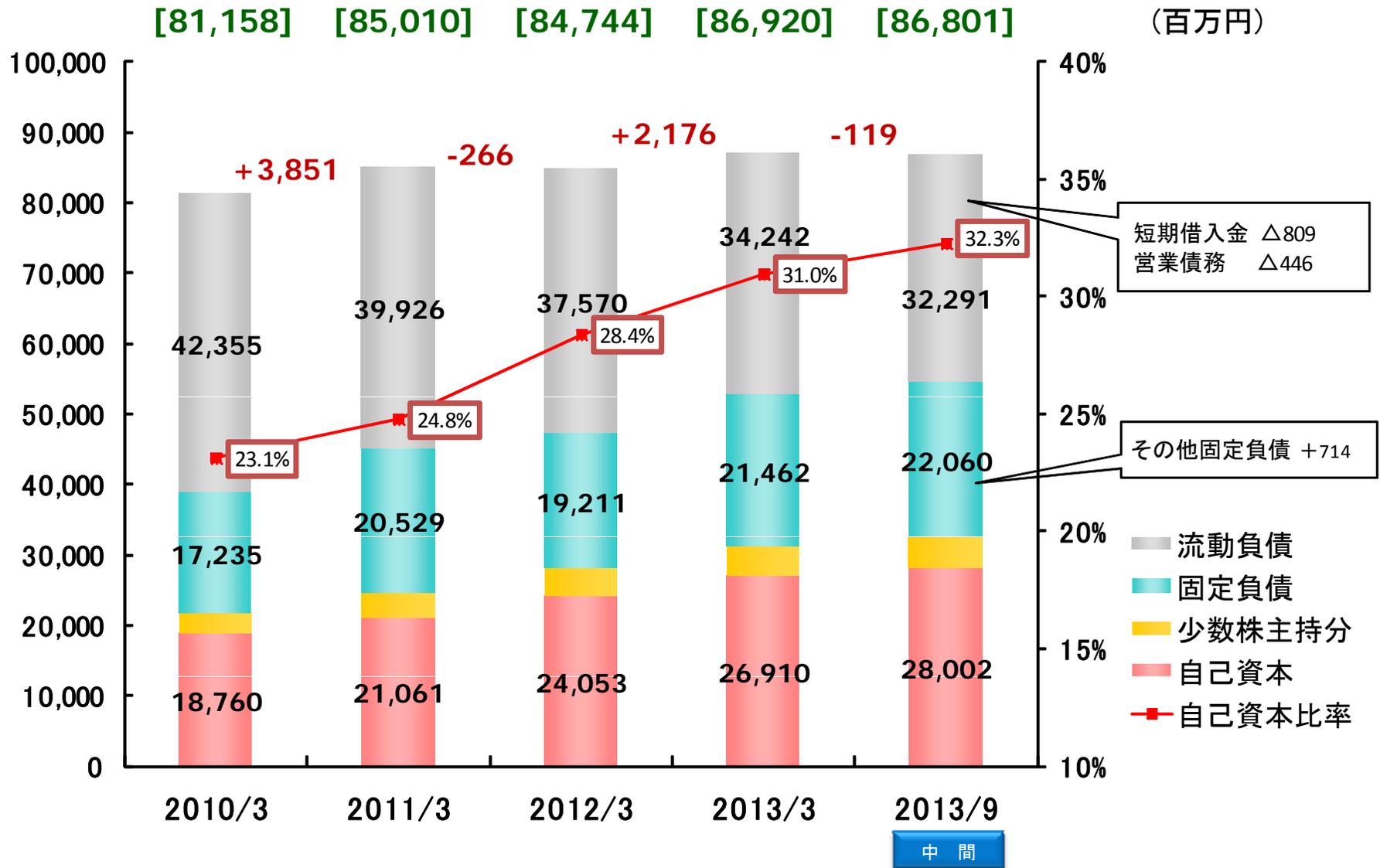
Ⅲ-3. 経費・人件費



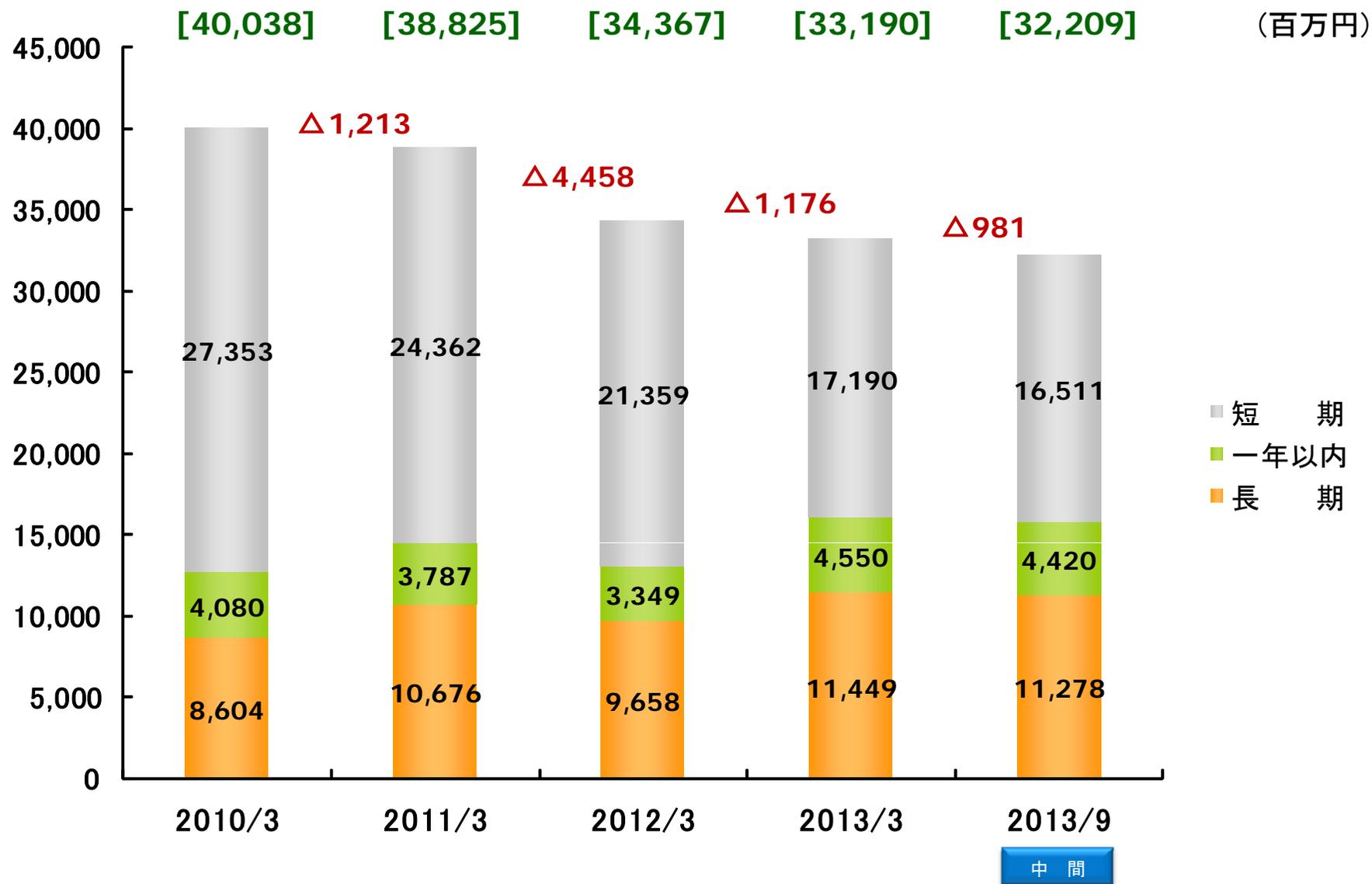
Ⅲ-4. 貸借対照表<資産>



Ⅲ-5. 貸借対照表<負債・純資産>

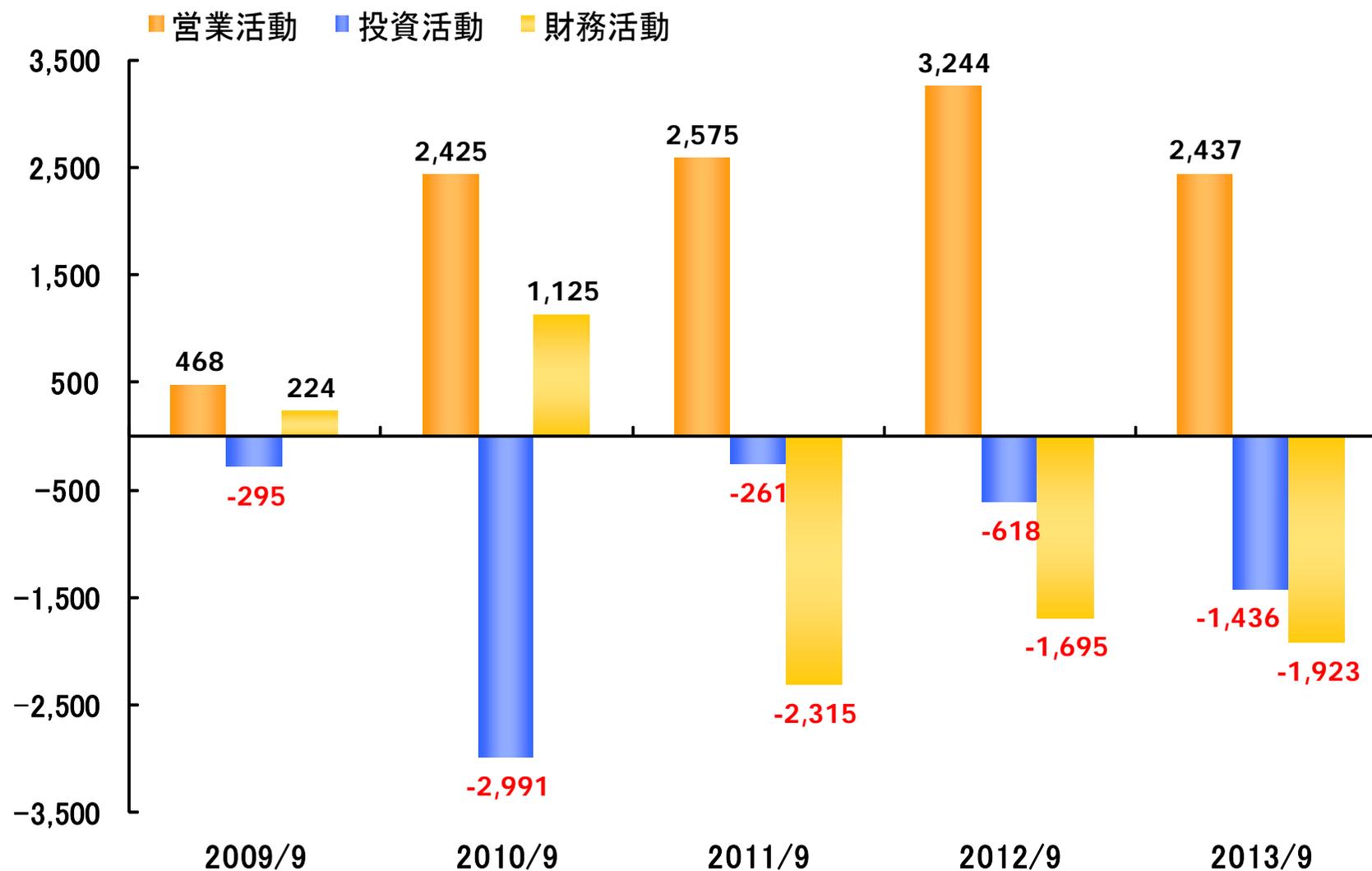


Ⅲ-6. 有利子負債（借入金）

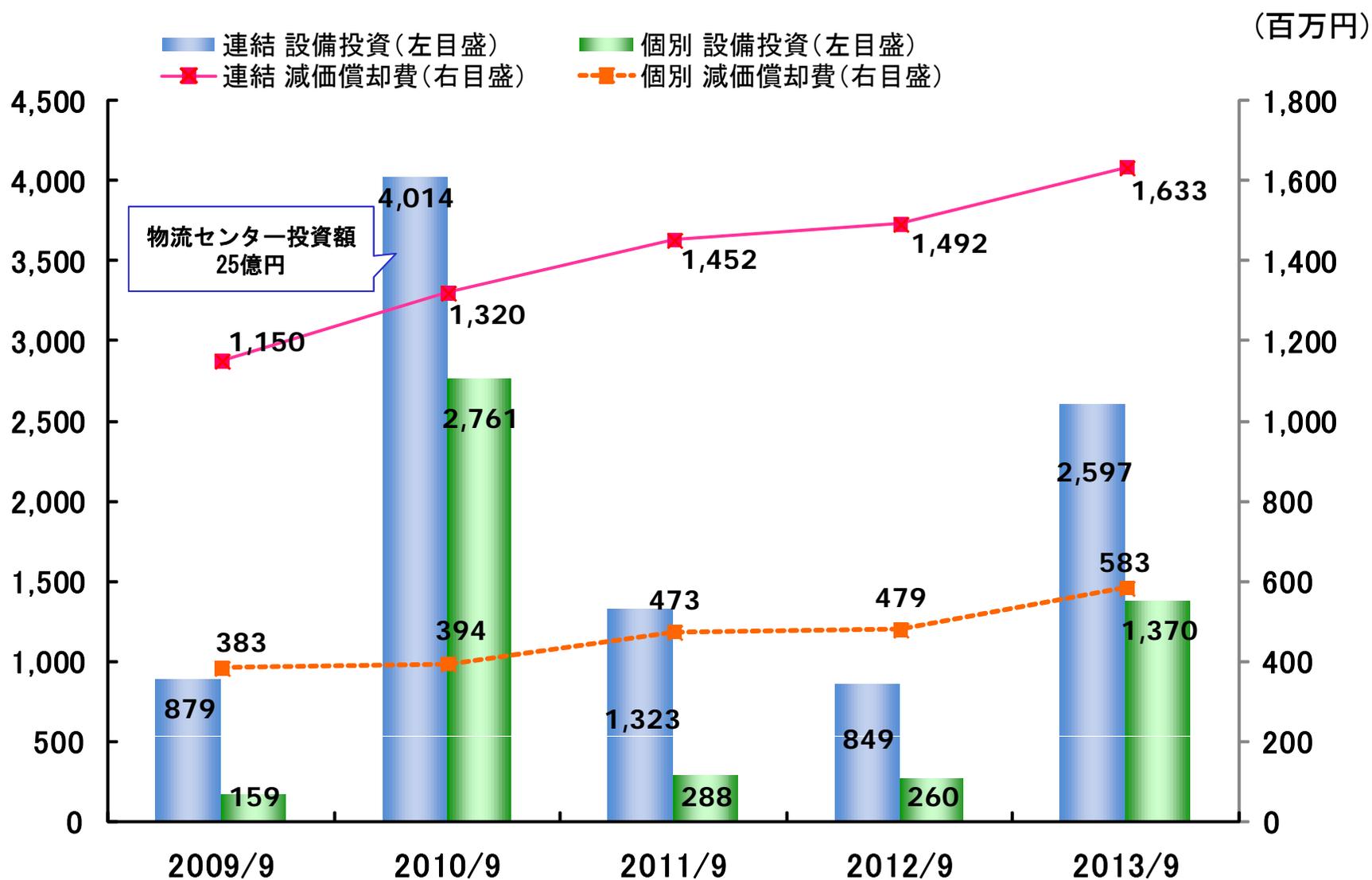


Ⅲ-7. キャッシュ・フロー

(百万円)



Ⅲ-8. 設備投資・減価償却費



IV. 近物レックスの現況と 今後の戦略

IV-1. 近物レックス 第2四半期累計期間の業績

(百万円)

	実 績			計 画	
	2012/9	2013/9	前期比 (増減率)	2013/9	計画比 (増減率)
営業収益	17,214	17,993	+779 (+4.5%)	17,723	+270 (+1.5%)
営業利益	214	298	+83 (+39.1%)	227	+70 (+30.8%)
経常利益	163	239	+76 (+46.5%)	150	+89 (+59.6%)

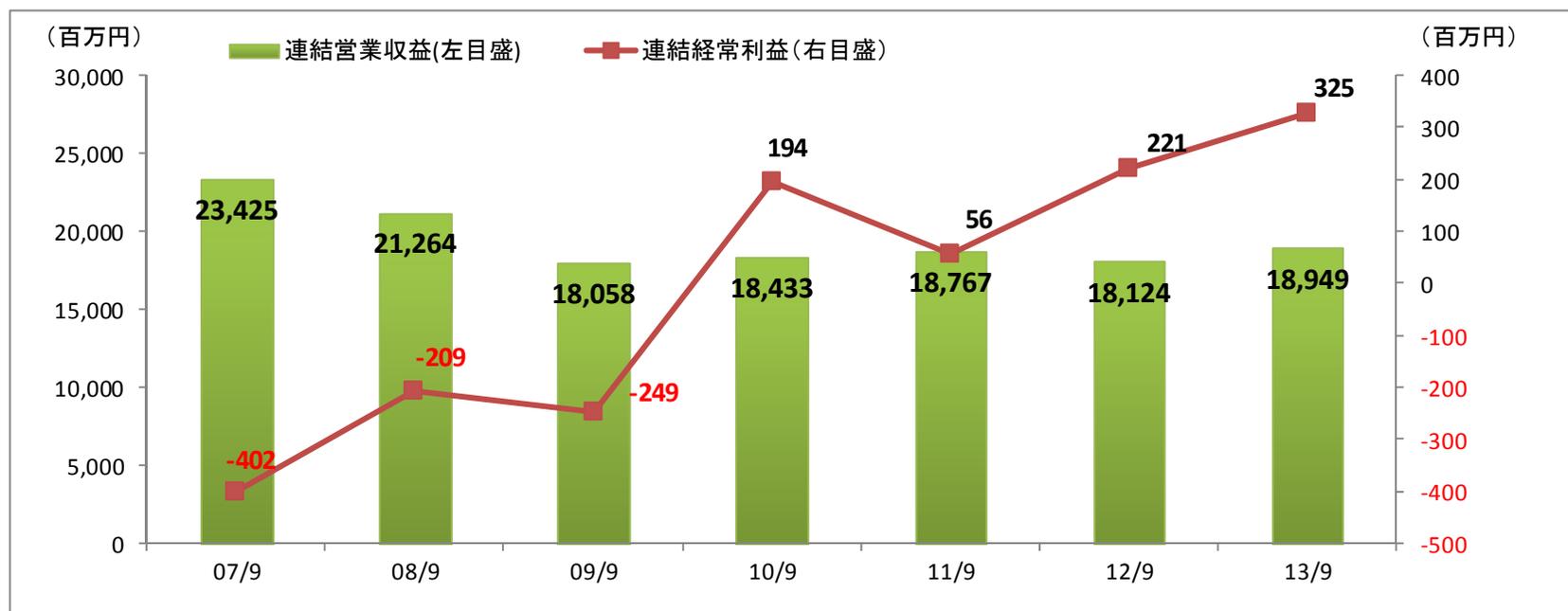
IV-2. 近物レックス 業績推移

(百万円)

	近物レックスグループ(連結子会社含む)						近物レックス単体	
	2009/9	2010/9	2011/9	2012/9	2013/9	増減額 (率)	2013/9	増減額 (率)
営業収益	18,058	18,433	18,767	18,124	18,949	+825 (+4.5%)	17,993	+779 (+4.5%)
営業利益	-117	74	177	269	379	+109 (+40.7%)	298	+83 (+39.1%)
経常利益	-249	194	55	220	323	+102 (+46.3%)	239	+76 (+46.5%)
当期純利益	-303	-2	-14	35	117	+81 (227.5%)	63	+56 (+774.0%)

※近物レックスグループ: 近物レックスの直接子会社を含めた連結数値となります。

IV-3. 近物レックス収益構造



	連結業績	個別業績
営業収益	増収	増収
営業利益	4期連続増益	4期連続増益
経常利益	2期連続増益	2期連続増益
四半期純利益	2期連続増益	2期連続増益

IV-4. 近物レックスの下期取組み

1. 情勢に適合した運賃への改定

- ・全ての顧客に対して「新運賃」の適用を実施する
- ・主要店所に重量計を設置し、適正な運賃に改定する

2. 同業との相互取引拡大

- ・幹線・集配・施設の相互効率化に向けての取組み

3. グループ会社との融合

- ・新たな共同施設の安定稼働
- ・3PLやルート配送への取組み
- ・自社倉庫の活用

4. 安全への取組み

- ・全車ドライブレコーダーの導入後の活用
- ・荷役器具・商品保護材の整備



IV-5. 近物レックス 業績予想

(百万円)

	見込	計画	
	2014/3	2014/3	計画比 (増減率)
営業収益	36,340	35,818	+521 (+1.4%)
営業利益	542	528	+13 (+2.6%)
経常利益	430	380	+50 (+13.1%)

V. 参考情報



「物」に携わる者として、

「人と接するときは、**心**を込めて」

「仕事をするときは、**初心**を忘れず前向きに」

「物を扱うときは、**心**を込めて丁寧に」

「物を運ぶときは、**心**を込めて安全に」

「如何なるときにも感謝の**心**を大切に」

を基本テーマに取組んでおります。

V-2. 経営方針

物流の役割は駆伝でいえば最終ランナー、
地味ではあるが信頼された重要な存在。
当企業グループは信頼に応じて効率的な事業活動の
展開と継続的で質の高い成長を図り、
お客様第一、品質第一を基本に、企業としての
社会的責任を果たしてまいります。
また、短期的な収益にとらわれず、
長期的な視点に立った経営を行い、3PL物流における
質的内容の日本一を目指します。



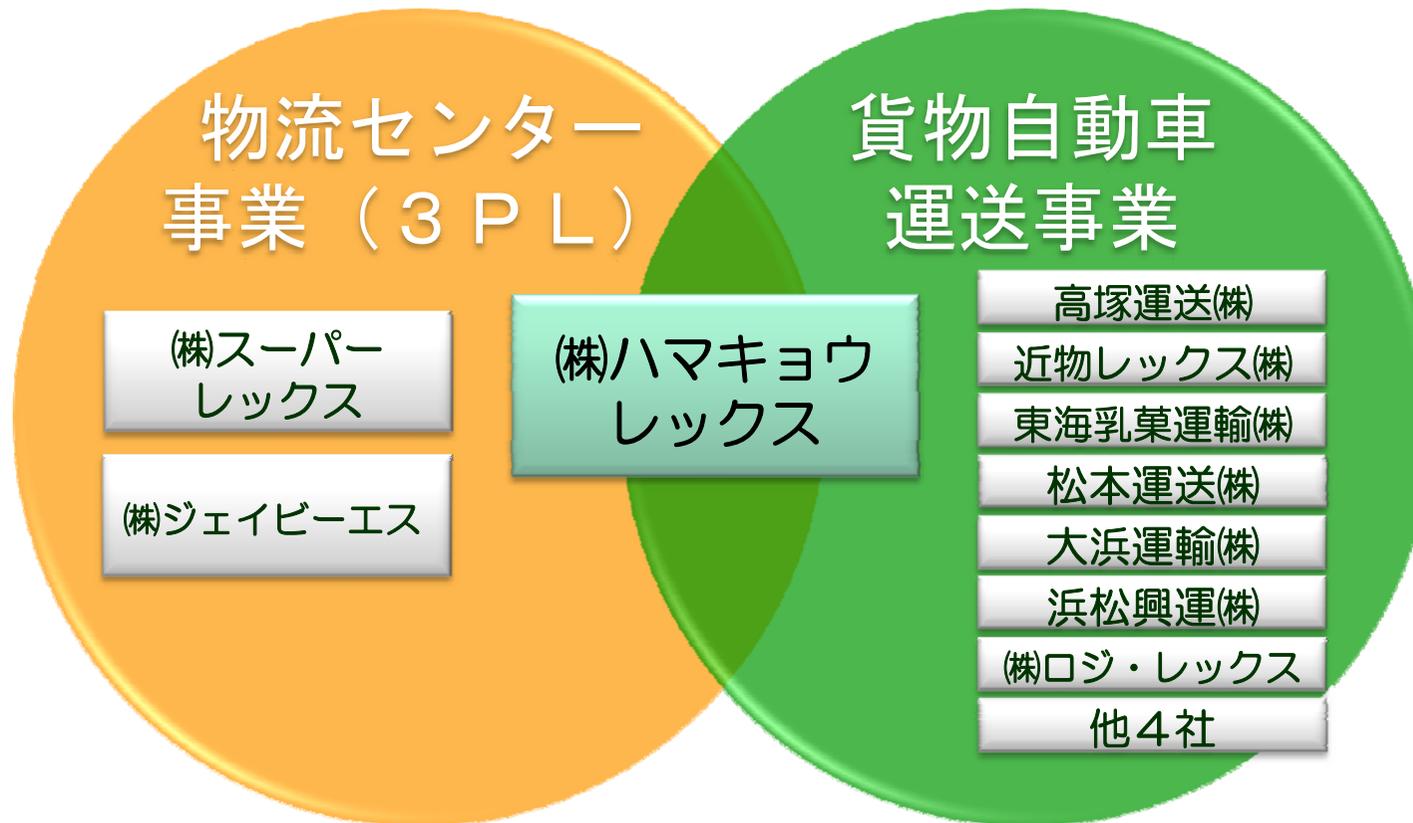
V-3. プロフィール

会社概要（2013年9月30日現在）

- 社 名 株式会社ハマキョウレックス
(HAMAKYOREX CO., LTD.)
- 設 立 昭和46年2月
- 資 本 金 40億4,505万円
- 決 算 期 3月31日
- 従 業 員 数 連結 4,036名、単体 677名
- 発 行 済 株 式 数 8,356,000株
- 株 主 数 3,141名
- 事 業 内 容 物流センター事業（3PL）、貨物自動車運送事業
- 連 結 子 会 社 13社
- 売 上 高
(2013年3月期) 連結 889億43百万円
単体 343億15百万円
- 経 常 利 益
(2013年3月期) 連結 59億56百万円
単体 36億82百万円

V-4. 事業紹介

当社グループは、
物流センター事業と貨物自動車運送事業を中心に
展開しております。



V-5. 物流センター事業

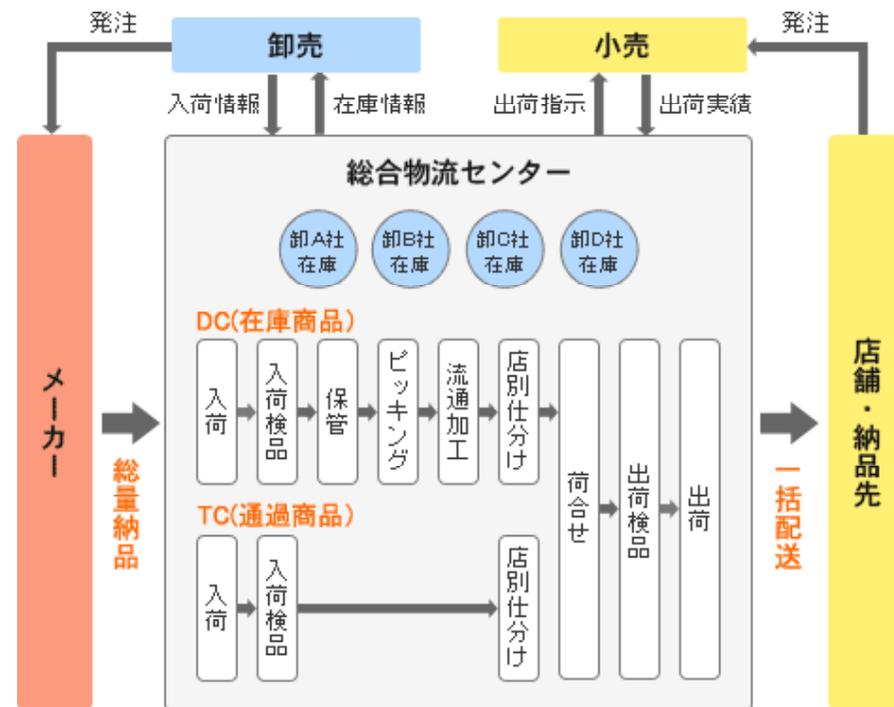
当社は**3PL(3rd Party Logistics)**をおこなっております。

3PLとは、『荷主様に対して物流改革を提案し包括して物流業務を受託すること』であり、一般的には、『荷主様が物流業務を外部委託(アウトソーシング)すること』を指します。

3PLの主な目的は、「物流コスト削減」「戦略的ロジスティクスの構築による利益追求」です。

お客様にとって最適な物流通をご提案し、「物流を通じてお客様へ利益を還元する」ことが最も重要な役割であると考えております。

物流センター事業例
～在庫保管型センター (DC) の場合～



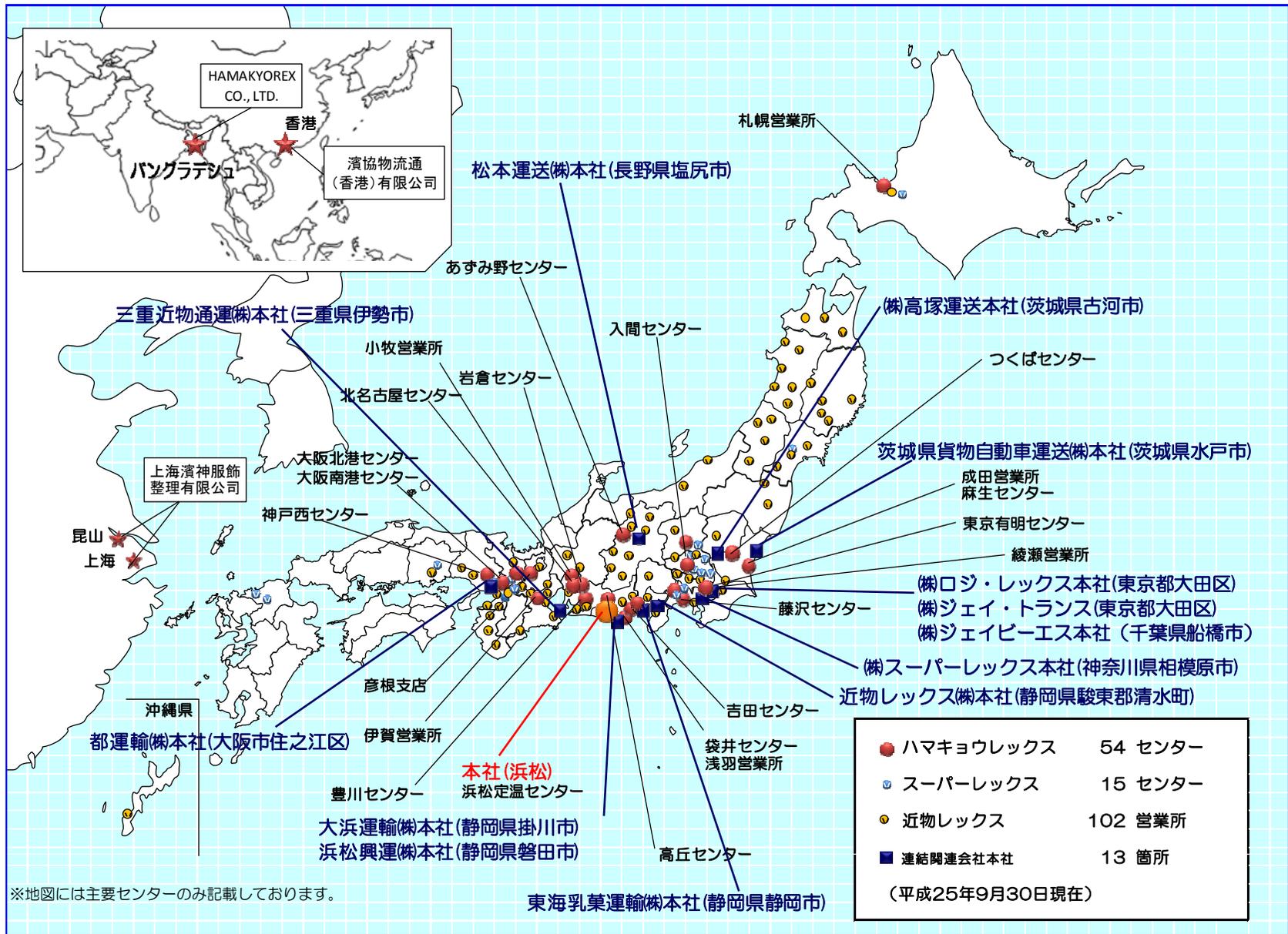
コスト競争力 現場力

当社は、「**コミュニケーション**」を重要視し、社員・パート・アルバイトを含めた「**全員参加**」による現場主導での自社運営を実施。「**日計収支**^{※1}」・「**アコーディオン方式**^{※2}」によるコスト削減を荷主様へ提案し、物流費削減を支援いたします。

※1 日計収支とは、各拠点で、日々決算を行い、その日1日の損益を把握する仕組みです。これにより、その日の問題点を翌日の改善につなげ、日々の無駄なコストを削減していくための当社の仕組みであります。

※2 アコーディオン方式とは、日々の物量(仕事量)にあわせ、最適(最小限)な人員投入を行う仕組みです。これにより日々最適な人員体制を敷くことで、余分なコスト発生を抑えることができます。

V-7. 拠点紹介



IR関係問合せ先・担当者

● 取締役執行役員

内山 宏

● 経営企画室 課長

石塚 智規

TEL 053-444-0054



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。